

## 産婦人科ストレートコースの紹介

当科では年間 500-600 例余りの手術と 500-600 例余りの分娩を取り扱っています。

当科の特徴として、悪性疾患（子宮頸癌・子宮体癌・卵巣癌・腹膜癌など）の手術症例が非常に多く、100 例強（0 期を除く）あります。また、腹腔鏡下手術にも積極的に取り組んでおり、現在は年間 70 例程度ですが、今後さらに増やしていく予定です。基本的には主治医が執刀医となり、指導医の指導のもと、年間約 100 例の執刀と、約 200 例の第一助手を経験します。2 年目以降では、広汎子宮全摘術等の悪性腫瘍手術の執刀機会もふんだんに与えられ、手術を完遂します。



さらに手術後の化学療法・放射線治療、手術不適応症例への化学療法・放射線治療など、悪性疾患の幅広い治療・管理を習得することが可能です。

また、優れたスタッフをそろえた他の診療科と密な連携のもとに診療を行っており、放射線科とは週に 1 回周術期画像カンファレンスを行っています。



周産期領域では、総合病院という特性を生かして、さまざまな合併症妊娠症例を経験することができます。また 1 年目後半から指導医とともに外来診察および妊婦健診を行います。その他、年間約 50 例程度の流産手術を行い、早期に技術の習得に努めています。

このように、当科では特定の領域に偏ることなく、産婦人科全分野を満遍なく研修できることが最大の利点と考えています。

## 研修中のシニアレジデントからのメッセージ

<研修中のシニアレジデントより>



新生児の診察をする一年目シニアレジデント



超音波診察をする三年目シニアレジデント

私たちシニアレジデントは普段から、10名前後の患者さんを主治医として受け持っています。

婦人科では一年目から、良性疾患、悪性疾患、子宮脱など幅広い分野の患者さんを受け持ちます。診断・検査・治療方針の決定・治療方針の説明・治療まで全てを自分で考えながら決めていきます・・・と聞くと、不安を覚えられた方もいるかも知れませんね。

でも・・・

大丈夫です！！！！

私たちの科は常に和気あいあいとしていて、部長をはじめとしたスタッフ全員が何かと病棟詰所に集まっては、病棟や外来の患者さんの情報交換をしたり、一緒に文献検索をしたり、治療方針の相談をしたりしています。結局のところ、毎日のようにミニカンファを開いているようなもので、チーム医療の原点だと思っています。



周産期に関しては、シニアレジデントをはじめとした若手医師が積極的に関与するよう  
にしており、先輩の先生方や他科の先生方に密接にバックアップしていただいています。

手術は緊張感を保ちつつも、和気あいあいとした雰囲気に包まれており、主治医症例で  
は全て自分で執刀が任されています。自分の成長が日々実感でき、忙しいながらも非常  
に充実した、**life-work balance** のとれた日々を送っています。

ぜひ一度、見学に来てください。当科の魅力の虜になること間違いなしです！！